

事業名：24-1 子どもの帰宅を促す放送（防犯活動事業）

担当部課名：市民経済部 防犯課

① 事業実施の背景
<p>昨年市内では子どもたちが被害に遭う「声掛け」や「付きまとい」、「陰部露出」などの不審者事案の発生報告が増加し、中には悪質な痴漢被害も報告されている。また、全国では児童等の交通死亡事故や小学生の女児の連れ去り事件・女児監禁事件など、子どもたちが巻き込まれる事件や事故が相次いだことから、子どもたちを様々な犯罪や事故などから守るための抑止対策として実施する。</p>
② 事業の概要(対象、実施方法、事業のねらいと目的など)
<p>日没時間が早く、子ども達が事故や事件に巻き込まれる可能性が高い 11 月 1 日から翌年 2 月末日までの期間、午後 4 時 30 分に防災行政用無線による『子どもの帰宅を促す放送』の実施。</p> <p>『子どもの帰宅を促す放送』は、屋外で遊んでいる子どもたちに帰宅を促すとともに、放送を通じて地域の皆さんに子どもたちの帰宅時における安全面での見守りや声掛けをお願いするもので、地域ぐるみ(市民全体を巻き込んだ)での防犯対策の一層の推進を図ることを目的とする。</p> <p>期間:11 月 1 日から翌年 2 月末日までの毎日                  時間:午後 4 時 30 分                  内容:『午後 4 時 30 分になりました。子どもたちは気をつけておうちに帰りましょう。地域の皆さんも見守りをお願いします。』                  対象:浦安市民全体</p>
③ 想定される事業効果
<p>子どもの安全を確保                  犯罪認知件数の減少</p>

平成 24 年度の実施状況および評価（可能なものについては、数値などを具体的に記入）
<p>平成 23 年度 3 月に教育委員会生涯学習課を通じ、浦安市小中学校 PTA 連絡協議会から要望を受け、市民経済部(防犯課)、教育委員会(生涯学習課・保健体育安全課・指導課・青少年センター)、こども部(青少年課)、総務部(防災課)の関係課で検討を行い、平成 24 年 11 月から当事業を開始した。</p> <p>学校関係者や青少年関係団体、自治会、防犯活動団体等を中心に概ね理解・協力を得ている。一方で、「市長への手紙」や電話等で「毎日の放送がうるさい」「子どもへの帰宅指導等は家庭でやるべきことだ」「緊急時のための防災行政用無線を安易に使うべきではない」などの苦情がある。</p>
【目標数値等を記入できるものについては、具体的に記入】
<p>目標年度:平成 年度                  目標内容:</p>
平成 25 年度の事業予定・今後の課題
<p>平成 24 年度に引き続き実施する。</p>

<b>① 事業実施の背景</b>
<p>平成 23 年において、浦安市内における人身事故総数に占める自転車の関係する事故は約4割で、千葉県内の発生割合が約2割であるため、自転車の関係する事故が多い状況である。</p> <p>その中でも、中学生の事故のうち約7割が自転車の関係する事故となっている。</p>
<b>② 事業の概要(対象、実施方法、事業のねらいと目的など)</b>
<p><b>【対象】:</b>市内全中学校及び中学校通学区域の住民等</p> <p><b>【実施方法】:</b>一年3校ずつ開催し、市内9校の中学生が在学中に一度は体験できるよう実施する。</p> <p><b>【目的】:</b>自転車による交通事故の多い中学生を対象として、スタントマンによるリアルな交通事故再現を取り入れた自転車交通安全教室を開催し、交通安全意識の向上等を図るとともに、交通ルールの遵守と正しい交通マナーを実践させ、中学生の交通事故の抑止を図ること。</p>
<b>③ 想定される事業効果</b>
<p>自転車の安全利用に関する交通安全意識が向上することで、中学生が関係する自転車事故の減少が期待できる。</p> <p>また、実施中学校通学区域の住民の見学も促していることから、成人の交通安全意識の向上についても期待することができる。</p>
<b>④ 関連する法規・計画や既存事業(他課の事業も含む)</b>
<p>道路交通法</p> <p>浦安市自転車の安全利用に関する条例</p> <p>自転車交通安全教室(市内小学校3年生対象)</p>

<b>平成 24 年度の実施状況および評価</b> （可能なものについては、数値などを具体的に記入）
<p>7月9日:美浜中学校（生徒 321 名、一般 8名）</p> <p>7月10日:浦安中学校（生徒 606 名、一般 9名）</p> <p>11月10日:堀江中学校（生徒 512 名、一般 52 名）</p>
<p><b>【目標数値等を記入できるものについては、具体的に記入】</b></p> <p>目標年度:平成 年度</p> <p>目標内容:</p>
<b>平成 25 年度の事業予定・今後の課題</b>
<p>日の出中学校:567 名</p> <p>入船中学校:659 名</p> <p>見明川中学校:342 名</p> <p>※数値はいずれも平成 25 年 5 月 1 日付のもの</p>

① 事業実施の背景
<p>県民の日は市内の公立小中学校が休校日である。</p> <p>そこで、子どもの居場所づくりや子どもを地域で育てる機会として実施する。さらに、市内の公民館や図書館、文化会館で開催することで、これらの公共施設を身近に感じてもらう機会を提供する。</p>
② 事業の概要(対象、実施方法、事業のねらいと目的など)
<p>○対象: 幼児とその保護者、小学生、中学生。</p> <p>○実施方法: 公民館7館、中央図書館、郷土博物館の社会教育施設をはじめ、文化会館や児童センター、青少年館など、15施設で実施。各施設において、「クライミングウォールに挑戦!!」や「子どもたちが店長さん!!ミニ祭り」などの子どもを対象にした事業を実施した。</p> <p>○事業のねらいと目的</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 浦安の子どもを地域で育てる機会のため(子どもの居場所づくり)。</li> <li>② 事業をきっかけに、施設を身近に感じてもらう。</li> </ol>
③ 想定される事業効果
<p>①子どもの居場所づくりについて</p> <p>参加人数が延べ 7,053 人(大人を含む)と多数の参加者があったこと、子ども同士でイベントに参加する姿が多くみられたことから、子どもたちの居場所づくりや子どものコミュニケーションの場を提供できた。</p> <p>②身近に感じていただける施設について</p> <p>元町の子どもが新町の公民館を訪れたり、その逆もあつたりと、多くの子どもに生涯学習施設を知ってもらうとともに、親しみをもってもらうことができた。</p>

<p><b>平成 24 年度の実施状況および評価</b> (可能なものについては、数値などを具体的に記入)</p>
<p>○実施日 :平成 24 年 6 月 15 日(金)</p> <p>○実施施設: 15 施設(公民館 7 館、郷土博物館、中央図書館、視聴覚ライブラリー、総合体育館、市民プラザ、文化会館、青少年館、東野児童センター)</p> <p>○参加者数: 延べ 7,053 人</p>
<p><b>【目標数値等を記入できるものについては、具体的に記入】</b></p>
<p>目標年度:平成 年度</p> <p>目標内容:</p>
<p><b>平成 25 年度の事業予定・今後の課題</b></p>
<p>○平成 24 年度の課題</p> <p>①複数の施設で実施するため、情報を取りまとめた「このゆびとまれ特別号」を発行した。また、各施設でも情報紙を発行して周知を図ったが、発行時期や掲載情報の内容に違いがあった。今後は、周知の方法について、調整して対応していきたい。</p> <p>②バスの運行時間とイベントの開催時間が合わない施設があったので、バスの時間を基準にしてイベントの時間を設定すべきであった。またバスに関しては、一方向のみの運行であったため、逆回りをするバスも必要であった。</p> <p>○平成 25 年度の事業予定</p> <p>平成 25 年6月 15 日(土)実施予定。</p>

事業名：24-4 女の子のカラダの変化と下着の選び方

担当部課名：生涯学習部 当代島公民館

① 事業実施の背景
今の子どもの成長の速さとまどう保護者がおり、成長期における女の子の体型がどう変化するのか、下着はどんなものを与えたらいいのか、どう選んだらいいのかなど、不安に思う保護者がいたことから実施。
② 事業の概要(対象、実施方法、事業のねらいと目的など)
成長期における女の子の体型変化や下着の選び方について不安に思う保護者もいる。保護者が子どもの頃と今の子どもの体型の違いやおとなになるまでの体型の変化など知る機会を図る。
③ 想定される事業効果
子どもの体型の変化やそれに見合った下着の選びかたを理解することにより、親子のコミュニケーションも図られ、子どもへのアドバイスもできる。
④ 関連する法規・計画や既存事業(他課の事業も含む)
公民館運営方針・Ⅱ世代対象別事業(2.子育て期にある成人の学習 )

**平成 24 年度の実施状況および評価** (可能なものについては、数値などを具体的に記入)

16 人の参加があった。

ひと昔と今の女の子のカラダの成長の違いや特徴などを学び、その発達に応じた下着をなぜ選ばなければいけないのかを、写真や映像、データをもとに理解することができた。年頃の女の子を持つ保護者には大変参考になったことと思う。

子ども向けにも講座を開催してほしいという要望をいただいた。

**【目標数値等を記入できるものについては、具体的に記入】**

目標年度：平成 年度

目標内容：

**平成 25 年度の事業予定・今後の課題**

別の視点からの取り組みをしてみたい。

事業名：24-5 子どもの命を守り心を育てよう～いじめと人権～

担当部課名：生涯学習部 当代島公民館

① 事業実施の背景
テレビのニュースや新聞報道で、いじめを苦に自殺の道を選んでしまう子どもたちがいる。公民館としても、保護者と一緒に「いじめとは何か」「いじめとけんかの境はどこか」などを理解し、子どもの心に寄り添うためにどうすればいいのか学ぶ機会とした。
② 事業の概要(対象、実施方法、事業のねらいと目的など)
12月の人権週間の前に、お子さんを持つ保護者の方を対象に、「いじめと人権」をテーマに講座を開催する。ニュースでも、いじめを苦に自殺の道を選んでしまう子どもたちがいる。①いじめが人間らしい幸せな生活を破壊する人権侵害であることを知っていただく②差別意識について考えていただく③違いを認め合い互いを尊重し合う人権意識を育てるきっかけをつくることを目的としたい。まずは、保護者の意識を変えることから始めたい。
③ 想定される事業効果
「いじめと人権」をテーマに、保護者としてどう子どもに寄り添ったらいいのか、子どもと向き合うことの大切さを再確認した。
④ 関連する法規・計画や既存事業(他課の事業も含む)
公民館運営方針・Ⅱ世代対象別事業(5.成人の学習 )-(1)現代的課題への取り組み(その他)

**平成 24 年度の実施状況および評価** (可能なものについては、数値などを具体的に記入)

延べ 22 人の参加があった。

1 回目はワークショップ形式をとりいれながら、「いじめと人権」について学んだ。父親の参加も見られ、体験をとおして親子のコミュニケーションの大切さや「けんか」と「いじめ」の定義などについて理解を深めた。質疑応答も活発だった。2 回目は「子どもの虐待」をテーマに人権感覚を身につけていただいた。人権感覚を身につけることにより住みやすい豊かなまちになることを参加者同士で確認した。

**【目標数値等を記入できるものについては、具体的に記入】**

目標年度：平成 年度

目標内容：

**平成 25 年度の事業予定・今後の課題**

今後とも人権を視野に入れた子ども・子育て支援の講座に取り組んでいきたい。

① 事業実施の背景
主催事業のアンケートの中に、「子どもを預けリラックスできる時間をもちたい」「女性として輝き続けたい」などといった感想をいただいている。子育て中の母親たちに、生き生きと前向きに子育てをしていくためのきっかけづくりとして、いろいろな角度からアプローチしていく。
② 事業の概要(対象、実施方法、事業のねらいと目的など)
子育て中の母親たちの仲間づくりやリラックスするきっかけを創出する。 ①生活の中にアロマを取り入れる②家庭でもできるエクササイズを学ぶ③カラーセラピーとアートセラピーからココロを軽くする④親子でスキンシップをする方法を知るなど、いろいろな切り口から子育ての楽しさを再確認し、子どもと向き合っていた。
③ 想定される事業効果
子育て中の母親たちの仲間づくりができた。お互いに電話番号やメールアドレスの交換などもあり、悩みを共有するなどして、輪をひろげていた。
④ 関連する法規・計画や既存事業(他課の事業も含む)
公民館運営方針・II世代対象別事業(2.子育て期にある成人の学習)

<b>平成 24 年度の実施状況および評価</b> (可能なものについては、数値などを具体的に記入)
延べ 60 人の参加があった。 子育て中の母親のつながりを作りたい、子育て期間中を楽しんでもらいたい、地域で子どもを育てていく、といった含みを持たせた講座だったが、そのねらいはアンケート結果からも達成できたと思う。「孤育て」にならない環境整備も公民館事業のひとつの役割だと思った。
<b>【目標数値等を記入できるものについては、具体的に記入】</b> 目標年度:平成 年度 目標内容:
<b>平成 25 年度の事業予定・今後の課題</b>
今後も継続していきたい。

① 事業実施の背景
ソーシャルゲームやゲームサイト、ソーシャルネットワークなどの普及により、子どもを取り巻くインターネットのトラブルは多く発生している。テレビや新聞の報道でも、遠隔操作などのサイバー犯罪などが取りざたされている。
② 事業の概要(対象、実施方法、事業のねらいと目的など)
子どもをインターネットのトラブルから守るため、まずは保護者に、今のインターネット世界の現状やトラブル事例などを理解していただき、家庭でのルールなどをあわせて考えていただく機会を図る。
③ 想定される事業効果
家庭でのルールなどをあわせて考えていただく。
④ 関連する法規・計画や既存事業(他課の事業も含む)
公民館運営方針・Ⅱ世代対象別事業(2.子育て期にある成人の学習 )

**平成 24 年度の実施状況および評価** (可能なものについては、数値などを具体的に記入)

延べ 24 人の参加があった。

「子どもたちが巻き込まれるトラブル事例」を中心に、DVD を所々観ながら学んだ。パソコンと携帯電話の両方から、ソーシャルネットワークの危険やネットいじめ、家庭でのルールづくりの必要性、相談窓口の所在など、細かく知ることができた。自己責任・自己管理の大切さと困ったら一人で抱え込まず周囲に相談する姿勢の大切も理解できたと思う。アンケートの感想からも、講座の学習だけにとどまらず、家族や周囲にも伝える、親子でルールをつくる、もっと勉強する、賢いユーザーになるために努力するなどといった学びの広がりが見られる。

**【目標数値等を記入できるものについては、具体的に記入】**

目標年度：平成 年度

目標内容：

**平成 25 年度の事業予定・今後の課題**

別の切り口で取りあげてみたい。



① 事業実施の背景
思春期の時期にさしかかると、子どもの行動や考えていることにとまどいや不安を感じる保護者が多いことから学習の機会を図る。
② 事業の概要(対象、実施方法、事業のねらいと目的など)
思春期はカラダの変化にともない、自我が強くなり、こころが揺れ動く時期でもある。保護者は子どもの姿をしっかり受けとめて、思春期の特徴をよく理解し、見守ってあげることが大切である。 この時期は、保護者に対する反抗期を迎え、親子のコミュニケーションが不足しがちである。また、仲間同士の評価を強く意識する反面、他者との交流に消極的な傾向も見られる。性意識が高まり、異性への興味関心も高まる時期でもある。 そのような現状を踏まえ、思春期を迎えるお子さんを持つ保護者を対象に、親子のかかわりかたを学ぶ機会を図る。
③ 想定される事業効果
思春期の保護者の子どもへのかかわりかたや見守りかたを理解する。
④ 関連する法規・計画や既存事業(他課の事業も含む)
公民館運営方針・II世代対象別事業(2.子育て期にある成人の学習)

**平成 24 年度の実施状況および評価** (可能なものについては、数値などを具体的に記入)

39 人の参加があった。

講義にとどまらず、ロールプレイをふんだんに取り入れ、子どもの気持ちを推察し、気づき、工夫するという学習プログラムが、参加者の学習にとって有効なものであった。家庭教育学級の学級生たちも参加しており、家庭教育学級でもこうした手法を取り入れた講義を受けたい、ほかの保護者にも伝えたいと話していた。

**【目標数値等を記入できるものについては、具体的に記入】**

目標年度：平成 年度

目標内容：

**平成 25 年度の事業予定・今後の課題**

思春期のお子さんを持つ保護者やこれから思春期を迎えるお子さんを持つ保護者を対象に、継続して取り組みたい。



① 事業実施の背景
家庭教育学級の話に、「父親が子どもとどう遊んだらいいのかわからない」「うちの子、〇〇ちゃんよりできることが少ない。〇〇ちゃんがうらやましい。」といったものがよく出てくる。
② 事業の概要(対象、実施方法、事業のねらいと目的など)
「遊び」のプロである講師に、子どもとの触れ合いや言葉かけなどをおし、子どもの自発的な考えや行動を引き出す様子を、保護者に見ていただく。そこから、お父さんやお母さんに子どもとどのように接したらいいのか、子どもの発見を引き出すにはどう接したらいいのかなどを、体験をおして気づいていただく。子育てが楽しいということに気づいていただく。また、「みんな違ってみんないい」ことを実感していただく。
③ 想定される事業効果
父親や母親に、自分の子どもと他人の子どもを比較することなく、子どもの個性を見守り、子育てを楽しんでいただく。
④ 関連する法規・計画や既存事業(他課の事業も含む)
公民館運営方針・Ⅱ世代対象別事業(1.幼児・青少年の発達課題に応じた学習)-(1)未就学児対象事業

**平成 24 年度の実施状況および評価** (可能なものについては、数値などを具体的に記入)

18人(男性2人、女性5人、子ども11人)の参加があった。

はじめはかたかった親子の表情も、講師の語りかけですぐにほぐれ、笑顔になった。ひとつきっかけを与えただけで、子どもたちから思いもよらない発想が次から次へと飛び出してくる。子どもたちが自分たちで考え、「今」を楽しみ、想像力を膨らませていく「遊び」が保護者には新鮮にうつったようだ。今後も機会があれば開催したい。

**【目標数値等を記入できるものについては、具体的に記入】**

目標年度：平成 年度

目標内容：

**平成 25 年度の事業予定・今後の課題**

継続して取り組んでいきたい。

<b>① 事業実施の背景</b>
親の子どもを育てていく時に直面する悩み・不安など何なのかを見つめ、その根っこを探る。親子の関わり・遊び、子どもの発達段階とその個人差についてなどを聞き、本当に自分にとって大切な子育て環境(支援)は何かを考える。また、真に子どもが育つ力を育むのに必要なこと・大切なものは何かを考えていく。
<b>② 事業の概要(対象、実施方法、事業のねらいと目的など)</b>
0歳から未就学児の親(夫婦)を対象に、効率性・経済的豊かや早さが優位にある暮らし、多種多様な情報が錯綜する中、子どもが育つこととはどういうことか、どう育むのかを考える親の学習の機会とする。併せて、参加者相互の交流の場とする。
<b>③ 想定される事業効果</b>
自らの育児を見つめなおし、子どもとのかかわり方を考える。
<b>④ 関連する法規・計画や既存事業(他課の事業も含む)</b>
公民館運営方針・II世代対象別事業(5.成人の学習)-(1)現代的課題への取り組み(その他)

**平成 24 年度の実施状況および評価** (可能なものについては、数値などを具体的に記入)

実施日:平成 25 年 1 月 21 日、28 日、2 月 18 日(月)

参加者数:延べ 40 人

**【目標数値等を記入できるものについては、具体的に記入】**

目標年度:平成 年度

目標内容:

**平成 25 年度の事業予定・今後の課題**

平成 24 年度の課題

現代の子育て環境の現状をおさえ、自らの育児を見つめ直すことを目的に子育て期の親に対して開催しているが、父親の参加が難しい。開催日を検討するなどの懸案がある。

平成 25 年度の事業予定有。

① 事業実施の背景
現代はパソコンの普及で学校教育においてもパソコンが利用される時代になり、字を書く機会が少なくなってきた。文字の大きさや配列・形を整えて書くことで字に興味を持ってもらう機会とする。
② 事業の概要(対象、実施方法、事業のねらいと目的など)
文字の大きさや配列・形を整えて書くことを学び、字を書くことに興味を持ってもらう。 具体的な内容: 学年にあった字を練習し、好きな字を色紙に書き、消しゴム版画で名前スタンプを作成する。
③ 想定される事業効果
より習字に興味もち、文字の大きさや配列・形を整えて書くことを意識するようになる。
④ 関連する法規・計画や既存事業(他課の事業も含む)
公民館運営方針・Ⅱ世代対象別事業(1.幼児・青少年の発達課題に応じた学習)-(2)青少年(小学生以上)対象事業

**平成 24 年度の実施状況および評価** (可能なものについては、数値などを具体的に記入)

実施日:平成 25 年 2 月 2 日・9 日・16 日(土) 全3回

参加者数:延べ 28 人

**【目標数値等を記入できるものについては、具体的に記入】**

目標年度:平成 年度

目標内容:

**平成 25 年度の事業予定・今後の課題**

平成 24 年度の課題

字を書く機会が少なくなっているため、字に興味をもつチャンスとして有意義な講座である。

平成 25 年度、同類の事業予定有。

① 事業実施の背景
食育基本法が施行され、食生活が現代的な課題となっている。また、食の安全性についても社会問題となっており、生活のありようも問われている中であって、毎日の食生活を見直し、改めて「食」について学ぶ機会を作る。
② 事業の概要(対象、実施方法、事業のねらいと目的など)
この事業の計画については堀江公民館の主催事業参加者より、「毎日の食講座」への質問を集め、それをもとに計画した。様々な年代の方にも興味を持てる内容となっており、毎日の食生活を見直し、改めて「食」について学ぶ機会としたい。
③ 想定される事業効果
毎日の食生活を見直し、改めて「食」について関心を持ってもらえる。

<b>平成 24 年度の実施状況および評価</b> (可能なものについては、数値などを具体的に記入)
実施日:平成 25 年 2 月 15 日(金) 参加者数:22 人
<b>【目標数値等を記入できるものについては、具体的に記入】</b> 目標年度:平成 年度 目標内容:
<b>平成 25 年度の事業予定・今後の課題</b>
平成 24 年度の課題 20 代から 70 代と幅広く男性の参加もあり、講師に事前に当日の参加者からの質問等を伝えたので、その内容を織り交ぜながらの内容での講義だった。このような機会をより多く設けたい。  平成 25 年度の事業予定有。

<b>① 事業実施の背景</b>
子どもが日本の年中行事や伝統文化に親しみ、関心を高める機会とする。
<b>② 事業の概要(対象、実施方法、事業のねらいと目的など)</b>
季節の行事に子どもが親しむきっかけとして新春お茶会と豆まきを行う。また、普段堀江公民館で活動している茶道サークルがお茶のお手前を披露することで、地域の大人と子どものふれあいを図る。
<b>③ 想定される事業効果</b>
日本古来から伝わる伝統文化・行事を学び、体験できる。
<b>④ 関連する法規・計画や既存事業(他課の事業も含む)</b>
公民館運営方針・Ⅱ世代対象別事業(1.幼児・青少年の発達課題に応じた学習)-(3)地域交流・居場所づくり事業

**平成 24 年度の実施状況および評価** (可能なものについては、数値などを具体的に記入)

実施日:平成 25 年 2 月 3 日(日)

参加者数:64 人

**【目標数値等を記入できるものについては、具体的に記入】**

目標年度:平成 年度

目標内容:

**平成 25 年度の事業予定・今後の課題**

平成 24 年度の課題

季節の行事に子どもが親しむきっかけとして新春お茶会と豆まきを行う。地域の大人と子どものふれあいを図るためにも有意義な講座である。

平成 25 年度、同類の事業予定有。

① 事業実施の背景
冬になると発生する静電気の仕組みを知り、静電気の特性を生かした化学実験を行い、子どもに興味を持ってもらう機会とする。
② 事業の概要(対象、実施方法、事業のねらいと目的など)
バンデグラフで静電気を起こして溜め、放電実験を行う。また、自分でライデンコップ(ビン)と放電叉を作ってみる。
③ 想定される事業効果
楽しく実験することにより、科学に対する生徒・児童の興味・関心を高める効果が期待される。
④ 関連する法規・計画や既存事業(他課の事業も含む)
公民館運営方針・Ⅱ世代対象別事業(1.幼児・青少年の発達課題に応じた学習)-(3)地域交流・居場所づくり事業

**平成 24 年度の実施状況および評価** (可能なものについては、数値などを具体的に記入)

実施日:平成 25 年 1 月 26 日(土)

参加者数:23 人

**【目標数値等を記入できるものについては、具体的に記入】**

目標年度:平成 年度

目標内容:

**平成 25 年度の事業予定・今後の課題**

平成 24 年度の課題

楽しく実験しながら身近な不思議を考える講座の1つとして、有意義な講座である。

平成 25 年度、同類の事業予定有。

① 事業実施の背景
妊娠、出産、育児で崩れてしまった姿勢をポスチュア(姿勢)スタイリストが丁寧に矯正していく。猫背改善、ヒップアップに効果的。
② 事業の概要(対象、実施方法、事業のねらいと目的など)
子育て中の姿勢と歩き方を整えて、日頃のストレスをエクササイズにより解消させ、健康維持と参加者の交流を図る。 具体的な内容:姿勢のチェック、体をほぐす体操、美しく歩くための基本姿勢と歩き方のレクチャー・実践を行う。また、身体に負担の少ない抱っこひものつけ方も行う。
③ 想定される事業効果
道具を使用せずに美しく姿勢で歩くだけで、体がどんどん引き締まり、心の変化も期待できる。
④ 関連する法規・計画や既存事業(他課の事業も含む)
公民館運営方針・Ⅱ世代対象別事業(5.成人の学習)-(2)豊かな生活文化・人との繋がりを育む(健康・体力づくり・スポーツ)

**平成 24 年度の実施状況および評価** (可能なものについては、数値などを具体的に記入)

実施日：①2月14日(木)・25日(月)・3月14日(木)(3回)

②2月19日(火)・3月7日(木)・25日(月)(3回)

参加者数：延べ80人

**【目標数値等を記入できるものについては、具体的に記入】**

目標年度：平成 年度

目標内容：

**平成 25 年度の事業予定・今後の課題**

今後の課題は、とてもニーズの多い講座であるため定期的実施し、多くの市民の要望に応えたい。  
短時間で体と心の変化がみられることが参加者を引き付けるのであろう。



① 事業実施の背景
読み聞かせや手遊びをとおした親子のふれあい・交流の場の提供を行う。また、体操・工作などをとおして子ども同士の異年齢交流の機会とする。
② 事業の概要(対象、実施方法、事業のねらいと目的など)
地域の子どもと親子が自由に参加できる工作・親子体操などを行い、豊かな親子関係・地域関係を築く手がかりとする。また同年齢の子を持つ親の交流の機会とする。
③ 想定される事業効果
地域の子どもと親子が自由に参加できる工作・親子体操などを行い、豊かな親子関係・異年齢の地域関係を築く手がかりとし、また同年齢の子を持つ親の交流が期待される。
④ 関連する法規・計画や既存事業(他課の事業も含む)
公民館運営方針・Ⅱ世代対象別事業(2.子育て期にある成人の学習)

**平成 24 年度の実施状況および評価** (可能なものについては、数値などを具体的に記入)

実施日:平成 25 年 2 月 24 日(土)

参加者数:450 人

**【目標数値等を記入できるものについては、具体的に記入】**

目標年度:平成 年度

目標内容:

**平成 25 年度の事業予定・今後の課題**

今年度はさわやかボランティア:4 名、堀江中学校科学部:10 名、子ども 4 名、おはなしの会:9 名、ワークショップ 12 人、ランチ部門:5 名の総勢 44 名のスタッフの協力によって行われた。

細かい打ち合わせの時間が持たず、当日の各スタッフの担当が不明確だった部分があった。

その他のワークショップも堀中科学部生徒、工作、木工、七輪、映画、おはなし会、運動、フリーマーケットなど幅広く催すことができ、楽しんでもらった。地域の方ともつながれる有意義な事業である。

25 年度は 3 月に開催予定

<b>① 事業実施の背景</b>
子育て期の親の持つ課題をとりあげて知り、意見を交わし、理解をひろめ、実践へ… 「人権」は下地として浸み込ませるなど。具体的な課題については堀江公民館主催事業の家庭教育学級の方々からの意見(知りたいこと)を取り込んでいる。
<b>② 事業の概要(対象、実施方法、事業のねらいと目的など)</b>
この事業の内容は、子育て期の親の持つ課題をとりあげているが、参加対象としては特に限定していない。 全3回の実施方法は、1回目と2回目がコーディネーター(人権擁護委員)とコメンテーターを交えた形で学校や家庭での子どもの居場所とは何かを考える。 3回目は淑徳大学教授の柏女霊峰氏が講師での基調講義。こども家庭課との合同事業として、「子どもの人権」で何だろう～子どもは最善の利益を受ける権利がある～をテーマとして「浦安市の子どもをみんなで守る条例」とおして、子どもの人権について取り上げる。
<b>③ 想定される事業効果</b>
・子どもが置かれている現実を理解する。 ・人と人との関係を醸成することとはどういうことが考える。 ・アプローチとして、家族の有様・自己肯定感・子どもの居場所・評価(親・子)。 ・今、大人社会ができることは何かを考える。

**平成 24 年度の実施状況および評価** (可能なものについては、数値などを具体的に記入)

実施日：平成25年3月5日・12日・19日(火)全3回

参加者数：45 人

**【目標数値等を記入できるものについては、具体的に記入】**

目標年度：平成 年度

目標内容：

**平成 25 年度の事業予定・今後の課題**

平成 24 年度の課題

子育て期の親の持つ課題をとりあげて知り、意見を交わし、理解をひろめ、実践へ…。子どもが置かれている現実を理解するために、有意義な講座である。

平成 25 年度、同類の事業予定有。

事業名：23-1 自治会と市民活動団体の連携促進事業

担当部課名：こども部 こども家庭課

【事業の開始時期】平成 23 年度より実施

<b>① 事業実施の背景</b>
地域ネットワーク課、市民活動推進課、こども家庭課の3課の課題を共有した行政の連携事業として実施。 地域ネットワーク課では、自治会加入率の向上・活動の活性化・集会所空時間の有効活用、市民活動推進課では、子育ての市民活動団体を育成、こども家庭課では、子育て・家族支援者養成講座認定者の有効活用・活動場所の安定的な確保が課題となっていた。
<b>② 事業の概要(対象、実施方法、事業のねらいと目的など)</b>
自治会と市民活動団体の連携を促進し、自治会及び市民活動団体の活性化を図ることを目的とし、第8区自治会主催事業として、子育て・家族支援者養成講座2級認定者による「おやこの広場・ほこほこ」に子育てサロン開催を依頼。 子育てサロンは、0～3歳児の親子を対象とし、毎月第4火曜日 13:30～15:30 第8区自治会集会場にて開催。
<b>③ 想定される事業効果</b>
自治会集会所の有効活用、市民活動団体の育成、子育て・家族支援者養成講座認定者の有効活用と3課の課題が解決されるだけでなく、子育てサロンに参加する親子の交流の場として大変好評であり、自治会役員等との交流も図れる場となっている。また、こどもにとっては、おじいちゃん世代となる役員等のふれあいも大切な場となっている。

**平成 24 年度の実施状況および評価** (可能なものについては、数値などを具体的に記入)

毎月第4火曜日 13:30～14:30、第8区自治会集会場にて子育てサロンを開催。

参加者数:153組 311名

子育てサロンに参加した親子が、自治会主催のイベントに参加するなど、自治会活動の活性化となり、子育て支援活動団体にとっても安定的な活動場所があることにより、継続的な子育て支援活動を実施することができる。

**【目標数値等を記入できるものについては、具体的に記入】**

目標年度:平成 年度

目標内容:

**平成 25 年度の事業予定・今後の課題**

引き続き実施していく。

① 事業実施の背景
東野児童センターでは、現在1歳児を対象にした自由参加型を除く子育て支援事業を行っておらず、市民ニーズに答えるため事業を実施した。
② 事業の概要(対象、実施方法、事業のねらいと目的など)
<p>1 対 象 その年度に2歳になる幼児と保護者</p> <p>2 実施方法</p> <p>(1) 内容 登録制 親子 児童センター職員による週替り遊びの提供や体操・手遊びなど</p> <p>(2) 日時 金曜日(全10回) 午前10時15分～11時15分</p> <p>(3) 定員 32組</p> <p>(4) 参加費 無料</p> <p>3 目 的</p> <p>「親子が向き合って楽しく過ごす」「親子で楽しく参加し、友達作りや交流を通じて、子育て期を楽しむ」ことを目的とする。</p>
③ 想定される事業効果
<p>1 親子が向き合って楽しく過ごせる場を提供する。</p> <p>2 親子で楽しく参加し、友達作りや交流を通じて、子育て期を楽しむ環境を提供する。</p> <p>3 子育て期の孤立化防止や虐待予防が図れる。</p>
④ 関連する法規・計画や既存事業(他課の事業も含む)
<p>○東野児童センター既存事業(マシュマロクラブ、フルーツキャンディー、赤ちゃんサロン)</p> <p>○高洲児童センター既存事業(こんぺいとうサロン、みんな一緒)</p>

<b>平成 24 年度の実施状況および評価</b> (可能なものについては、数値などを具体的に記入)
<p>平成 24 年度は、23 年度に引続き3ヶ月で 10 回のペースにより、3期(重複利用不可)に分けて実施している。</p> <p>延べ利用人数 1,426 人</p> <p>(内訳)</p> <p>◎1期生 32組(4/27～7/13)延べ利用人数 544人、</p> <p>◎2期生 32組(9/21～11/30)延べ利用人数 524人</p> <p>◎3期生 23組(1/11～3/15)延べ利用人数 358人</p>
<b>【目標数値等を記入できるものについては、具体的に記入】</b>
<p>目標年度:平成 年度</p> <p>目標内容:</p>
<b>平成 25 年度の事業予定・今後の課題</b>
<p>平成 24 年度同様、3期(32組)に分けて実施を予定している。</p>

【事業の開始時期】平成 23 年度より実施

① 事業実施の背景
発達障がいとは、できるだけ早期に適切な療育を受ければ、健全に発達して自立した生活を送ることが可能である。しかし親がわが子の発達障がいに「気付かない」「受け入れられない」等のために、発達障がいの早期発見が遅れて早期療育の機会を逸してしまうことがある。そこで本事業は、発達障がいの心配のある幼児とその保護者を対象に、「気になる子どもの子育て応援事業」を実施して早期発見・早期療育につなげることを目的としている。
② 事業の概要(対象、実施方法、事業のねらいと目的など)
気になる子ども(発達障がいの疑いのある子ども)及びその保護者を対象に ・1～2 歳児クラス、・2～3 歳児クラス、・ぱくぱく会、・幼児教育月例会を開催する。
③ 想定される事業効果
保護者が子どもの発達障がいの心配に「気付く」「認める」ことで早期発見・早期療育へとつなげる。
④ 関連する法規・計画や既存事業(他課の事業も含む)
こども発達センター:未就学児を対象とした集団・個別療育 健康増進課:各種健診事業(1歳6か月健診・3歳児健診)

**平成 24 年度の実施状況および評価**（可能なものについては、数値などを具体的に記入）

事業内容

・療育専門スタッフが保護者に対してアドバイスを行う「ことばの発達相談」、集団での活動に親子が参加する「ははこのふれあい幼稚園」、子どもの成長に気がかりをもつ親子が自由に参加できる場として「こどものひろば」、お料理を通じた食育を行う「おやこのお料理教室」、様々な講師を招いて行う勉強会「幼児教育講習会」を実施した。

年間実利用者数 145 人(子どものみの人数)

・発達障がいの啓発を目的に「第 4 回浦安市発達支援セミナー」を実施した。

参加者数:233 人

【目標数値等を記入できるものについては、具体的に記入】

目標年度:平成 年度

目標内容:

**平成 25 年度の事業予定・今後の課題**

平成 25 年度以降については、当該事業は継続しない（廃止）。

【事業の開始時期】平成 23 年度より実施

① 事業実施の背景
<p>未来の浦安を担うリーダーを育成するには、多感な中学生の時期に企業や行政のトップリーダーや文化・スポーツに優れた方から、直接リーダーシップ等について学ぶ機会が必要であると考えた。そこで、市立各中学校2年生の中で学校のリーダーを務めている生徒を対象に、本事業を実施することとした。</p>
② 事業の概要(対象、実施方法、事業のねらいと目的など)
<p>本事業は、21世紀のふるさとうらやすを担うリーダーの育成をめざすとともに、学校のリーダーとしての能力・資質の向上を図ることを目的とした研修事業である。対象者は市立各中学校長から推薦された生徒会役員もしくは専門委員長・学級委員で、中学校2年生各校3名ずつ合計24名である。日程は平成23年12月26日(月)～28日(水)の2泊3日で、場所は浦安市青少年交流活動センター「うら・らめ～る」で実施した。講師は、企業や行政のトップリーダーやスポーツ・文化に優れた方を招聘し、リーダーの条件や心構えなどについての講座を行った。また、「ふるさとうらやす学習」では、市内の見学や市役所職員による市の現状・市政についての話をもとに、「浦安市の今後の政策」についてグループごとに話し合い活動を行った。</p>
③ 想定される事業効果
<p>「ふるさとうらやす立志塾」の研修を終えた生徒が、リーダーとして活躍できる能力・資質を向上させ、中学校で今まで以上にリーダーシップを発揮するとともに、未来の浦安を担うリーダーとして活躍することが期待される。</p>
④ 関連する法規・計画や既存事業(他課の事業も含む)
<p>関連する既存事業 ジュニアリーダー研修会によるリーダー育成の実施(青少年課)</p>

### 平成 24 年度の実施状況および評価 (可能なものについては、数値などを具体的に記入)

市立各中学校長から推薦された中学校2年生各校3名ずつ合計24名を対象に、宮城県石巻市において、平成24年8月20日(月)～22日(水)の2泊3日を実施した。

成果は次のとおりである。

- ①被災地の状況を見聞して被害の大きさについて学ぶとともに、被災された人たちとの交流を通して災害の怖さや辛さ、復興にける強い意志等について触れることができた。生徒たちは人の役にたちたいという思いを抱き、自分に何ができるのかを考えていききっかけになった。
- ②塾長や市長、復興に携わる人たちの講話を聞き、質問をしていくなかで、リーダーとして心構えを学ぶとともに、自らの夢や志についても考えることができた。
- ③事後報告会や各学校での報告集会において、被災地で学んだことなかから、何を、どのように伝えればよいのかを仲間と真剣に協議し、自分たちの思いを込めて発信することができた。

### 【目標数値等を記入できるものについては、具体的に記入】

目標年度:平成 年度

目標内容:

### 平成 25 年度の事業予定・今後の課題

平成25年度は、宮城県南三陸町及び石巻市において、8月19日(月)～21日(水)に2泊3日の日程で実施する予定である。詳細については、実行委員会を設置し、検討を進めていく。

今後の課題としては、講座の内容や構成について再度検討していくことや研修後の生徒の意欲や活動について追跡調査を行い、事業の成果を評価していきたいと考えている。



【事業の開始時期】平成 23 年度より実施

① 事業実施の背景
未就学児を子育て中のお母さんたちの話から、周りで仕事を持ちながら育児のほとんどを一人で担っている母親が、夫や家族の理解を得られずに孤立してしまったり、行政や地域などが行っている子育て支援事業を知らないままにいる母親たちがいるのではないかと現状が見受けられるため。
② 事業の概要(対象、実施方法、事業のねらいと目的など)
未就学児を子育て中で、仕事をしている又は、仕事をしたいと考えている母親(夫婦)が、心と身体のバランスを保ちながら、楽に前向きな子育てができるように応援する講座。 ・未就学児を子育て中で、仕事をしている又は、仕事をしたいと考えている母親(父親同伴可)20 組 ・1 月 21 日・2 月 4 日・18 日・25 日(土)午前 10 時～正午(全 4 回) 参加費無料・保育あり
③ 想定される事業効果
仕事を持っている或いは、持ちたいと考えている母親たちが直面している悩みの打開策や、子育てにおける夫婦関係のあり方、子育て支援施策の状況などを知ることにより、子育てをもっと楽しいものと考えて行けるのではないかとと思われる。
④ 関連する法規・計画や既存事業(他課の事業も含む)
公民館事業運営方針 II 世代対象別事業2. 子育て期にある成人の学習(6)親の学びとしての子育て支援事業の充実

平成 24 年度の実施状況および評価 (可能なものについては、数値などを具体的に記入)

24 年度は、実施していない。

【目標数値等を記入できるものについては、具体的に記入】

目標年度：平成 年度

目標内容：

平成 25 年度の事業予定・今後の課題

25 年度については、検討中である。



【事業の開始時期】平成 23 年度より実施

① 事業実施の背景
幼稚園の家庭教育学級の学級生から、「『イクメン』って何だろう？」「子育てを嫌がる主人を育児に参加させるにはどうしたらいいんだろう？」「育児に参加する『きっかけ』はどうやって作るんだろう？」等という悩みが数多くでた。世の中に『イクメン』と言われる人は増えていると聞かすが、私たちの身近にはいない。この講座を通して『イクメン』について知り、夫婦で子育てを楽しむ考え方やパートナーとの関係性を見直す。
② 事業の概要(対象、実施方法、事業のねらいと目的など)
夫婦で子育てを楽しむ考え方やパートナーとの関係性を見直す講義。
③ 想定される事業効果
父親に子育ての楽しさを知ってもらい、パートナーとの関係性をあらためて見直す機会とし、子育てを夫婦で楽しくしていく一助となる。
④ 関連する法規・計画や既存事業(他課の事業も含む)
公民館運営方針 II 世代別事業2. 子育て期にある成人の学習(4)父親の育児参加のための学習機会の創出

**平成 24 年度の実施状況および評価** (可能なものについては、数値などを具体的に記入)

平成 24 年度は実施していない。

**【目標数値等を記入できるものについては、具体的に記入】**

目標年度:平成 年度

目標内容:

**平成 25 年度の事業予定・今後の課題**

夫婦で学ぶ取り組みは考えていきたい。

【事業の開始時期】平成 23 年度より実施

<b>① 事業実施の背景</b>
家庭教育学級の受講生や「健康うらやす 21」の市民意識調査から、母親・子どもは自己肯定感が希薄であり、ほめられた経験がきわめて少ないということが挙げられる。
<b>② 事業の概要(対象、実施方法、事業のねらいと目的など)</b>
人権を考えると「少数者」の存在に気づく人権感覚を高める。「欲しいもの」「必要なもの」を分類しながら「権利」に気づく。 会話しているときに「いやだな」と感じる言葉、言い方、態度に気づく 真似してみたい言葉・言い方、態度を学ぶ
<b>③ 想定される事業効果</b>
他者の尊厳を尊重するとともに、自分自身を大切に思う気持ちを育む。自分自身を肯定的に見ることができるようになると、精神的な健康やささまざまな環境へ適応する力が高まり、前向きな態度で人生と向き合うことができる。豊かな人生を獲得できる。
<b>④ 関連する法規・計画や既存事業(他課の事業も含む)</b>
公民館運営方針：I 基本事業2. 人権に関する学習の充実(1)女性・子ども・障がい者・外国人居住者マイノリティ一の人権に関する基礎的講座

**平成 24 年度の実施状況および評価** (可能なものについては、数値などを具体的に記入)

平成 24 年度は、「子どもの命を守り心を育てよう～いじめと人権～」と事業名を変更し実施した。講師も市民活動を積極的に展開している団体をお願いした。

延べ 22 人の参加があった。

1 回目はワークショップ形式をとりいれながら、「いじめと人権」について学んだ。父親の参加も見られ、体験をとおして親子のコミュニケーションの大切さや「けんか」と「いじめ」の定義などについて理解を深めた。質疑応答も活発だった。2 回目は「子どもの虐待」をテーマに人権感覚を身につけていただいた。人権感覚を身につけることにより住みやすい豊かなまちになることを参加者同士で確認した。

**【目標数値等を記入できるものについては、具体的に記入】**

目標年度：平成 年度

目標内容：

**平成 25 年度の事業予定・今後の課題**

今後とも人権を視野に入れた子ども・子育て支援の講座に取り組んでいきたい。

【事業の開始時期】平成 23 年度より実施

<b>① 事業実施の背景</b>
子育て世代自身が核家族・少子化社会に育った世代となった。子育てや暮らしの知恵やスキルが伝承されにくくなっている一方で、様々な媒体から情報があふれ、親は、孤独と戸惑いの中で懸命に子育てをしている。 そのような中であって、子どもとの生活は人間の暮らしの流れの中で特別なものではなく、自然なものであること、そのために子どもの心身の発達や生活リズムなどの基本を学び、過度な気構えをもち、ゆったりと子どもを育てる暮らしの有り様を考える機会とし、併せて同年代の子を持つ人たちの交流の場とする。
<b>② 事業の概要(対象、実施方法、事業のねらいと目的など)</b>
【対象】6か月～2歳児を持つ方 20 人 【実施方法】日の出公民館にて全4回の講座を開催 【事業のねらいと目的】上記①参照
<b>③ 想定される事業効果</b>
子育て中に襲われる孤独感や戸惑いが緩和され、子育てに対する過度な気構えから解放される一助となることができれば、親子双方の心身の健康につながる。
<b>④ 関連する法規・計画や既存事業(他課の事業も含む)</b>
公民館運営方針：Ⅱ世代別事業2. 子育て期にある成人の学習(3)子供の発達課題(乳幼児期・思春期等)に応じた家庭教育に関する講座の実施

<b>平成 24 年度の実施状況および評価</b> (可能なものについては、数値などを具体的に記入)
前期(6月～7月、全5回。参加者：14名、延べ49名)、後期(10月～12月、全5回。参加者：12名、延べ31名)実施した。 いずれも参加者の内容の理解度が高く、他者の意見に共感しながらも自分の課題にも向き合える方々で、回を増すごとに個々の交流も深まっていった。各期の受講生から、今後の課題や事業テーマとなりそうなヒントも得られたので、事業効果は良好だった。
<b>【目標数値等を記入できるものについては、具体的に記入】</b> 目標年度：平成 年度 目標内容：
<b>平成 25 年度の事業予定・今後の課題</b>
24 年度と同等を予定している。